

## 審査の結果の要旨

氏名 坂本 慧介

人口減少等に伴い都市の成長・拡大に伴う都市問題の解決を目的として発展してきた近代都市計画の前提が覆りつつあるなか、都市計画が依拠すべき新たな規範のあり方が問われている。本論文は、そうした社会的背景のもと、「空間が人に与える価値認識」と「人が空間に与える働きかけ」を一对とする、人と空間の相互関係を基本単位に、人口減少黎明期を迎えた地方都市において増大が懸念される空き家・空閑地の発現過程の構造化を通じ、今後の都市計画の方向性を構想する上での視座を提示することを目的としたものである。

本論文は全7章から構成される。第1章では、社会的な背景および国内外での先行研究のレビューを通じ、本研究の学術上の位置づけが示されている。第2章では、47都道府県庁の所在都市を対象とするマクロな人口動態と空き家・空閑地量との相関比較を行い、研究対象2都市（栃木県宇都宮市・鳥取県鳥取市）が導出されている。第3章では、地方都市における既存住宅地の需要および居住地選択の実態について、都市の中心性や公共交通利便性による影響に着目した分析にもとづき、中心性や鉄道利便性の高低により、そうした空間特性の正の影響が住宅需要や居住地選択に反映される都市（宇都宮市）と、ほとんど反映されない都市（鳥取市）の両者が存在することを明らかにしている。第4章では、第3章における議論にもとづき、空き家と空閑地の間での発現・偏在パターンの相違性、および都市間での空き家・空閑地の発現・偏在パターンの相違性を捉えることで、これまで同一視されることの多かった空き家と空閑地の間での発現経緯の違いを明示している。第5章では、連続的に広がる既存住宅地について、空閑地の更新と空間特性との関係、および家・土地の更新主体である継承者ならびに転入者の個別属性を明らかにし、属地・属人の双方の観点から、家・土地の更新に係る要件を詳述している。第6章では、第3章から第5章までに明らかになった、居住者動態および空き家・空閑地の発現と立地特性との個々の関係を、社会と空間の相互関係構造として体系づけている。最後に第7章においては、人口減少時代の都市計画の方向性に関する展望が試みられ、都市中心部や公共交通網を核とする居住人口の集約が全国の自治体で推進されている現状に対し、都市中心部や公共交通網が核となりうる地方都市は

ごく僅かであり、多くの地方都市においては異なる計画指針が求められることが示されている。

審査会においては、とくに第7章において、その結果を既存の各種制度と対照させつつ、今後の都市計画の方向性を展望する点において、十分な議論の蓄積があるとは言えず、課題を残していること等が問題点として指摘された。しかし、第3～5章を中心に示された先進的かつ独自性の高い知見、および第6章において示された社会と空間の相互関係構造の体系化等、精力的な現地調査等にもとづき、これまで十分な議論のなかった地方都市における空き家・空閑地の発生と分布のメカニズムを精緻に解析したことには、高い学術的貢献が認められると評された。

以上より、審査委員全員による合議を行った結果、本論文を博士（工学）の学位請求論文に相応しいものとして、全員一致で認定した。